



とある偉人の真夏の冒険

鳥取砂丘研究の先駆者 とくだ さだかず 徳田貞一

鳥取市青谷町出身に徳田貞一（1889-1945）という地質学者がいます（図1）。東京帝国大学（現在の東京大学）在学中に、鳥取砂丘の「スリバチ」と呼ばれている地形を詳細に観察・記録し、海外で報告されていた同様な地形と比較検討し、1917（大正6）年に論文として発表しました。これが日本で初めての砂丘の地形・地質学的研究となりました。大学卒業後は鉱山会社に就職し、アジア各地の鉱山調査に携わるかわら、地形の成り立ちに関する論文を次々に発表しました。

そんな徳田博士が四十代半ばのとき、中学3年の夏休みに敢行した40日にもわたる大旅行の記憶を一冊の本にしました。題して『十一国無銭旅行記』。大変面白い旅行記で、旅の道中の出来事や心情がユーモアを交えてテンポ良く語られています。また、その旅行が行われた1905（明治28）年当時の風景や人の暮らしを生き生きと描き出しています。今回は、私が印象に残っている旅行記のエピソードをほんの一部だけですが紹介します。

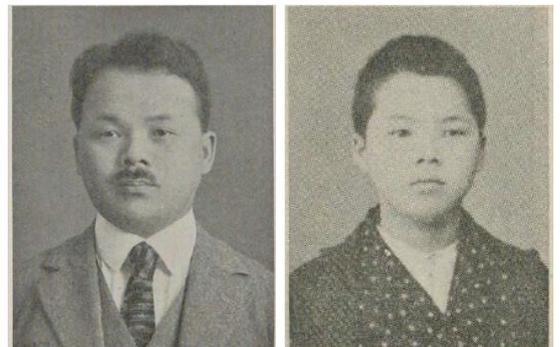


図1 徳田貞一博士（左）と少年時代の徳田氏（右）
『十一国無銭旅行記』より引用。

“確信犯的な”無銭旅行

徳田少年は鳴り砂で有名な井手ヶ浜や砂丘が広がる、青谷町の海岸部で生まれ育ちました。非常に探検好きで、青谷町の谷奥や母の実家がある鳥取市鹿野町の鷲峰山などの奥深くに分け入って昆虫や植物採取に熱中する子ども時代を過ごしました。やがて地元の山では飽き足らなくなり、南にそびえる中国山地の向こう側にはどんな世界が広がっているのだろうか？と思いを探検を巡らせるようになったといいます。

ある時、「無銭旅行」を思い立った徳田少年は、中学校の友達にも、先生にも、両親にも秘密裏に準備を進めます。そして浴衣と袴、下駄を身につけ、虫取り網と植物採取用の胴乱（ブリキ缶）、そしてわずか40銭を持って両親に「鹿野に行ってくる」と言って一人出かけます。これが40日間の旅の始まりでした。（その後の両親の心境や如何に）

突撃！見知らぬ家の晩ご飯

当時は鉄道もまだありません（山陽側には一部あり）ので、移動手段はもちろん徒歩です。次ページ図2は、旅行記から読み取れる、徳田少年がたどったと思われるルートです。今なら道が分からなければスマホですぐに調べることができますが、当時は詳細な地図を簡単に手に入れることが出来ない時代です。非常におおざっぱな地図を持ち、おそらく入念に下調べし、人に尋ねながら歩いたことでしょう。この旅行記を読むときは、現代のテクノロジーを駆使し、インターネットで国土地理院の地形図（<https://maps.gsi.go.jp>）を見ながら読み進めると、徳田少年の歩いた道の険しさや立ち寄った町の自然環境などを想像するのに役立ちます。地形図が苦手な人は、地形の凹凸が分かりやすい「陰影起伏図」を標準地図に重ねて表示すると分かりやすくなります。

ところで、殆どお金を持っていない徳田少年は、食事と宿泊はどうしたのでしょうか。40日間の間で、2、3回野宿をしたようですが、友人の家を数軒訪ねた以外は、殆どの夜を見知らぬ家や寺、学校の宿直室などにお世話になっています。泊まった先で人々の好意に触れ、生涯の親友や面白い和尚さんとの素敵な出会いがありました。もちろん、いきなり訪ねて晩ご飯と宿泊を要求するのですから、門前払いされることも多いのですが、旅の後半になると断られることにも慣れてきて、受け入れてくれる家が見つかるまで次から次へと突撃を繰り返すこともできるようになりました。たくましいですね！

あこがれの山陽側

岡山県に入り、中国山地の南側に出たとき、ただっ広い草原の高原でした。中国山地の向こう側にはどんな深い山と谷があるのだろうと想像していた徳田少年にとって、これはとても意外なことでした。そんな緩やかな岡山の山地を抜けて、瀬戸内海に出ました。そこでは、干潮で干上がった港と広大な干潟、そこで女性達がアサリを採る姿を、驚きを持って眺めました。潮の満ち引きが殆どない日本海側で育った徳田少年にとって初めて目の当たりにした景色でした。地形図の岡山県岡山市の範囲を表示し、国土地理院の「明治期の低湿地」を重ねてみてください。明治時代は岡山市の南に干潟・砂浜が広がっていることが分かります。ここは満潮時海面に没する場所でした。その大部分が、現在は干拓地・埋立地に変わってしまいました。

出発から30日ほどたった頃、神戸に着きました。夏休みが残り少なくなってきたこと、精神的・肉体的疲労を感じていたことから、六甲山を越えて北上し、帰路につくことにしました。その道中も天橋立や玄武洞、城崎などに立ち寄り様々な出会いがありました。この旅行記には、徳田少年が帰宅したときの両親の様子は書かれていませんでしたが、「書かずとも分かるでしょ」ということでしょうか（笑）。（金山）

【引用文献】徳田貞一（1936）『十一国無銭旅行記』古今書院 ※「国立国会図書館デジタルコレクション」で閲覧できます。
赤木一郎（2006）『独創的な実験で日本列島の雁行構造を説明した徳田貞一』地球科学 60 巻, p.339～343



図2 『十一国無銭旅行記』から推定される旅行ルート
国土地理院の標準地図と陰影起伏図を重ねた地図にルート、地名、県境を加筆。



図3 岡山市南部の干拓地・埋立地と明治期の干潟・砂浜の分布
(それぞれの輪郭の一部を点線と実線で示している)
国土地理院の標準地図に「明治期の低湿地」を重ねて表示。

♪イベント♪

☆月と木星の接近を見よう！

9/18 (土) 19:00-21:00 (申込不要)

☆地面の下を調べてみよう！

9/26(日)9:00-15:00 → 新型コロナ感染拡大のため、
延期します。開催日はHP等でお知らせします。

☆ジオパークの星空観望会(秋)

10/9 (土) 18:30-20:30 (申込不要)

☆野生動物のフィールドサインを探そう！

10/17(日) 9:30-12:00

申込受付：10/3 から電話にて受付